

【MSWキャリアラダー】第1版

	1	2	3	4	5	
	指導を受けながら実践できるレベル	SW実践が一人で確実にできるレベル	部署内でリーダーシップを発揮できるレベル	ロールモデルとなり、後輩を育成できるレベル	部署を統括し、適切なSWを提供できるように管理できるレベル	
目標	助言、指導を受けながらSWを実践する	自立して、主体的にSWを実践できる	学生や新人に指導するなどして、リーダーシップを発揮して実践できる	院内外においてロールモデルとなる	実践を管理し、学生や職員を指導・教育できる	
① 実践	アセスメント	・指導を受けながら、各々のアセスメントシート等に沿って情報収集ができる。 ・指導を受けながら、他職種と連携し情報を共有できる。 ・指導を受けながらSW記録が書ける。	・適切な面接技術を用いて、ボランティアなクライアントとラポール形成しながら、アセスメントすることができる。 ・収集した情報によるアセスメントを他者に説明ができる。 ・収集した情報を他職種と共有できる。 ・アセスメントに基づき、課題を改善するための社会資源を把握できる。	・適切な面接技術を用いて、ノンボランティアなクライアントとラポール形成しながら、アセスメントすることができる。 ・クライアントの多様なニーズを把握し、迅速にアセスメントすることができる。 ・クライアントとアセスメントを共有できる。	・社会資源を含めたクライアントと環境の全体性でアセスメントすることができる。 ・複雑なケースにおいてスキルを用いてクライアントの志向性をアセスメントすることができる。 ・臨床実践を根拠立てて言語化し、他職種へ伝える。	・個と地域を一体的にアセスメントすることができる。
	ニーズの明確化	・指導を受けながら個々のニーズを明らかにできる。 ・対象者理解を行うことができ、スーパーバイザーと共有することができる。	・アセスメント情報を元に自らニーズを明らかにできる。 ・面接技術、理論を用い意図的にニーズ把握を行うことができる。 ・ニーズを他職種へ伝達できる。	・適切にニーズの抽出が出来る。 ・主観的ニーズと客観的ニーズを明らかにできる。 ・権利擁護の必要性を他職種へ説明できる。	・アセスメント情報を元に即座にニーズ分析できる。 ・権利擁護の視点でニーズを説明できる。 ・個々や世帯及び地域の複合的なニーズを明らかにできる。	・新たなニーズや地域課題を発見し、課題解決や調整や開発並びに地域づくりに結び付けることができる。
	支援計画	・指導を受けながら、アセスメントを元に支援計画を立案できる。 ・支援計画をクライアントと共有することができる。	・ニーズに即した社会資源を抽出し、支援計画を自ら立案できる。 ・治療計画と照らし合わせて、妥当性を判断できる。 ・支援計画を他職種と共有することができる。	・ニーズの優先度を判断して、他職種他機関と連携して適切な支援計画を立案できる。 ・評価を元に適切に支援再計画を行うことができる。	・自らニーズを表出できないクライアントに対して、他職種他機関と連携して適切な支援計画を立案できる。 ・後進の支援計画立案および評価を元にした支援計画の指導を根拠を持って行うことができる。	・複合的なニーズに対し、他職種他機関と共にソーシャルアクションを含めた支援計画を立案することができる。
	介入	・指導を受けながら、支援計画に沿った介入ができる。 ・指導を受けながら、適切に面接技術を活用できる。 ・指導を受けながら他職種他機関との連携ができる。 ・指導を受けながら、SW記録が書ける。	・主体的に支援計画に添った介入ができる。 ・適切に面接技術を活用できる。 ・適切に他職種他機関との連携が行える。 ・適切なSW記録が書ける。	・多様なニーズの解決について、ニーズの優先度を判断し、他職種他機関と協力して介入できる。 ・自らの介入を学生や新人に指導できる。 ・迅速かつ的確な介入ができる。	・クライアントが知覚できていないニーズについて、課題解決へ向けた介入ができる。 ・多様なアプローチを用いてクライアントへ必要な介入ができる。 ・予想的、予防的な介入ができる。 ・多職種との連携・協働において、リーダーシップを発揮できる。 ・所属機関内外で他のソーシャルワーカーの介入に助言ができる。	・地域において複雑なニーズに対応するために、多様な知見を動員して分野横断的な介入ができる。 ・所属機関内外で他のソーシャルワーカーの介入に指導ができる。
	評価	・スーパーバイザーにクライアントへの支援の経過、結果を報告できる。 ・指導を受けながら、SW介入経過、結果についての疑問や曖昧な点を明確化できる。 ・指導を受けながら、SW介入の妥当性を評価できる。	・支援の経過、結果を端的に報告できる。 ・自らの実践の妥当性を評価できる。	・他のソーシャルワーカーの実践の評価ができる。 ・他職種と協力してモニタリングすることができる。	・支援の経過、結果を質的・量的に評価し、自他共にフィードバックできる。 ・他職種と支援の経過、結果を共有して、SW介入の必要性を明らかにすることができる。	・他職種と目標を共有し、結束して関わるように連携を促進できたかを評価できる。
② 教育	・研修に積極的に参加する。 ・自ら指導を受けることができる。 ・キャリアラダーの枠組みを理解する。	・自ら研修計画を立て、能力向上のため、研修会等に参加ができる。 ・自らの実践を新人や学生に伝えられる。 ・キャリアラダーを理解する。	・部署内で同僚や後輩に対して、教育・支持的機能を発揮できる。 ・中心的に実習指導をすることができる。 ・部署内の研修立案ができる。 ・キャリアラダーを活用できる。	・所属機関内で講師をすることができる。 ・職能団体の研修会の講師をすることができる。 ・ラダーを基に所属機関内でソーシャルワーク・コンサルテーションをすることができる。	・他機関や地域住民（クライアント）に向けて、講師を担うなど教育的な関わりができる。 ・ラダーを基に地域の中でスーパービジョンやコンサルテーションをすることができる。	
③ 研究	・「研究」に関心をもち学会等に参加することができる。 ・研究活動が自己の専門性の向上に必要な作業の一部であることを理解できる。	・自らの実践から問題意識をもつことができる。 ・主体的に学会等に参加し、そこでの知見を自らの実践に活用・応用することができる。 ・研究には満たすべき基準や守るべき手続きがあることを理解できる。	・問題意識を自己関心のみで終わらず、先行研究のレビュー等により具体化し、研究的関心へと発展させることができる。 ・研究課題等を明らかにするために、多様なデータ収集方法や分析手法があることを理解できる。	・自らの問題意識を先行研究レビュー等で具体化し、社会的意義を有する研究的課題にまで発展させることができる。また、これを研究過程の中で必要に応じて更新していくことができる。 ・研究課題を明らかにするために必要なデータ収集方法及び分析手法を適切に選択し、実行していくことができる。 ・研究成果をまとめ、学会及び誌上で報告するなど社会に対して公表することができる。	・これら一連の研究に関する必要な過程を指導・管理することができる。	
④ 管理	・社会人として時間や約束事を守るなど自身を管理できる。 ・所属組織、部署の状況やルールを知り、職場に慣れる。 ・自身の心と体の健康管理ができる。 ・倫理綱領を読む習慣をつけ、内容を理解できる。	・自身の支援の質を向上させる意識を持ち、積極的にスーパービジョンを受けることができる。 ・組織内のライン、マトリクスを知り、適切に報告・連絡・相談ができる。 ・自らの力量に合わせ積極性を持ちながら、体調管理を行うことができる。 ・倫理綱領と自らの実践を照らし合わせ、支援の質を向上させる意欲を持つ。	・部署内のスーパーバイザーとしての自覚を持ち、管理的機能を中心に発揮し後輩や学生を育てられる。 ・部署内のプロジェクトや委員会に参加し、ソーシャルワーク専門職としての発言、意見ができる。 ・カンファレンスを招集、調整、運営管理ができる。 ・診療・介護報酬上の施設基準等を理解し順守できる。 ・倫理綱領を常に意識し、自身の実践、行動の根拠を説明することができる。 ・地域活動に参加しソーシャルワーク専門職として発言できる。	・部署内のスタッフにスーパービジョンを行い、管理的機能を発揮することができる。 ・部署の事業計画、事業評価を行い、質を高めていくことができる。 ・積極的に地域活動に参画し、ソーシャルワーク専門職としての発言、意見を行い、所属組織を地域の資源として活用できるよう働きかけられる。 ・自身やスタッフが定期的に研修に参加できるよう業務マネジメントを行うことができる。 ・倫理綱領を熟知し、スタッフの理解を促進させるための指導ができる。	・部署内のマネジメントを行い、部署としてのアイデンティティを醸成し、組織内外に発信できる。 ・診療・介護報酬上の施設基準等を把握、理解し、組織および部署の体制をマネジメントできる。 ・地域をアセスメントし、所属組織のあり方についてクライアント（地域住民）の視点から発言、意見できる。 ・積極的に地域活動に参画し、所属組織が地域から効果的に活用できるようマネジメントできる。 ・倫理綱領を熟知し、クライアント、他の専門職、市民にソーシャルワーク専門職としての実践を伝え社会的信用を高める活動ができる。	
⑤ 理論	・ソーシャルワークには、たくさんの実践モデル、パースペクティブ（視座）、実践アプローチなどが存在し、実践の中でそれらが活用されていることを認識する。 ・「治療モデル」「生活モデル」「ストレンクスモデル」の実践モデルについて理解し、指導を受けながら3つのモデルで対象を見ることが出来る。	・人と環境の相互作用に関する理論としての「システム理論」を理解し、指導を受けながら、それらを活用し、アセスメントすることができる。 ・エコロジカルパースペクティブとストレンクスパースペクティブというメタ理論を理解し、指導を受けながら、それらを活用し、アセスメントすることができる。	・システム理論、エコロジカルパースペクティブ、ストレンクスパースペクティブを十分理解し、それらを意図的に活用し、アセスメントすることができる。 ・心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ等のそれぞれのアプローチの特徴や強み、限界等を理解する。 ・ケースの振り返りを行う中で、支援プロセス全体やアセスメント、介入において、実践と実践理論及びアプローチ等を結び付けて考えることができる。	・各々の所属機関や対象者の特性に合わせて単一及び複数の実践モデル・アプローチを組み合わせて意図的に使い、アセスメント・介入を行うことができる。 ・自己及び他者のソーシャルワーク実践を理論的に振り返ることができる。 ・これら実践モデルを他者へ講義できる。	・地域社会に対して、これら実践モデルを用いて、介入することができる。	